

府障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

府立支援学校における 学校給食調理業務委託について(見解)

大阪府立障害児学校教職員組合執行委員会

1 重大な問題が露呈した民間委託

府立支援学校における給食調理業務の民間委託が強行されて12年が経過しました(導入当時は盲ろう・養護学校)。府障教は、食の安全性の問題や、調理員と栄養教諭・教職員との連携が困難となること、委託業者変更時の引継ぎの困難さがあることなどを指摘し、学校や教育行政が直接責任を持つ直営自校調理方式を継続すべきだと、導入前から訴えてきました。

私たちが当時危惧した通り、民間委託が導入された府立支援学校において、近年重大な問題が次々に顕在化しています。調理員の変更が頻繁にある、仕様書を委託業者が守らないなどの問題に加え、今年度民間委託化されたばかりの

2 府教委が発表した「今後の委託方法」

府教委はこうした事態を受け、2月13日に「今後の委託方法について」との方針を発表しました。その一つは、調理従事者業務責任者業務責任者代理以外(以下、調理従事者)の資格要件緩和です。現行の資格要件では、調理従事者には、調理師資格または管理栄養士資格のいずれかとともに、特定給食施設における給食調理業務3年以上の経験年数が求められていました。今回はそれが、栄養士資格のみでも可(経験年数は問わない)と変更されました。一方、現場の栄養教諭が求めた「業務責任者」業務責任者代理の資格要件に、大阪市並みに「学校給食の単独調理場で業務経験3年以上」という条件を追加することに関し、

3 守るべきは民間委託ではなく、豊かで安全な学校給食

府教委は、民間委託化導入方針を明らかにした際、その目的は、障害の状況に応じた段階給食の提供、「多様なメニューの提供」を行うためと説明しました。ところがその一方では、府の危機的な財政状況も理由にあげ、年間3億円節約して空調設備整備に充てる(2002年12月読売新聞)との考えも示していました。導入の本当のねらいは、安上がりな給食への転換にあったと、私たちは考えています。

今回発表された、今後の委託方法についての内容にしても、「調理従事者」の資格要件緩和を行い、委託業者が人

様々な構造的問題が露呈し始めた民間委託化方針がこのまま継続されれば、子どもたちの食の安心・安全を脅かす問題に発展しかねないという危機感を、私たちは強く感じています。府障教執行委員会は、府立支援学校の給食調理業務民間委託化方針の撤回を改めて求めるとともに、当面新たな委託化を中止し、府立支援学校の給食調理業務民間委託化の是非について、直ちに客観的・専門的な検証を行うよう求めます。

私たちは、民間委託化方針の撤回を求めます

今回発表された、今後の委託方法についての内容にしても、「調理従事者」の資格要件緩和を行い、委託業者が人

なくせ原発 再稼働はんたい!

3・11
おおさか大集会
2017

日時：3月11日(土)
13:30~16:00

会場：エルおおさか

記念講演：「原発事故から
命と暮らしを守るために」

講師：立石雅昭さん
(新潟大学名誉教授)

全国障害児学級・学校交流集会に参加して(感想その5)

新鮮な感動と元気をもらった

“できない”時の子どもに思いを馳せる



何回か参加していますが、いつも新鮮な感動をおぼえて元気をもらっています。全体講演会では、「学校」の映画のモデルとなった人の話に感動しました。映画ではできる教師でしたが、実際のモデルは初めて養護学校に赴任した1年目の中堅教師で1年間ゆづや君にふり回され(自称)ダメな教師と言われていたのにも驚きました。しかし、ゆ

その他、アイヌ文化を知る講座に出て、アイヌの歴史や文化に少し触れることができ、よかったです。障害児教育の現状は厳しく、課題はたく

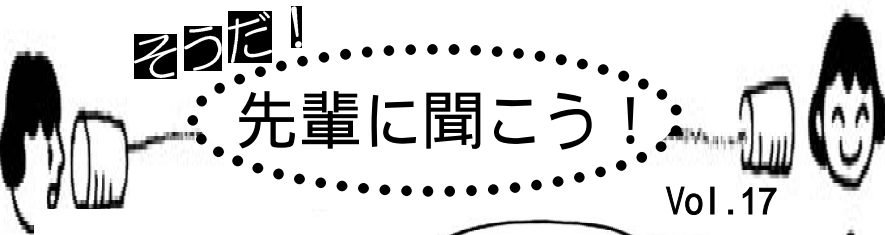
さんありますが、子どもたちとしっかり向き合う教育づくりをすすめていきたいと思いを新たに帰ってきました。多くの先生方にお世話になりました。ありがとうございました。

(匿名希望)

私が一番に残ったのは、三日目の教育フォーラム「とっておきの授業づくり」で報告された滋賀県立草津養護学校の保木先生の言葉です。「落ち着いてきた」という評価をすることがあるが、子どもが持っている力をあきらめていないだろうか?」

また、「自身のお子さんを例にあげ、妹は、恋ダンスを」

(生野聴覚支援学校分会 前田綾)



先輩に聞こう!

Vol.17

チームティーティングで悩んでいます。同僚と思いや考えが違う時、どうすればいいですか?匿名(初任1年目)

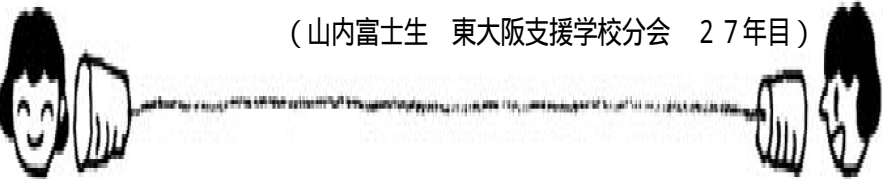
「チームティーティング」のテーマをいただいて思ったことは、「障害児教育の魅力」ということでした。それをうまく伝えられたらいいなと...

授業をつくる時や生徒指導、学級運営をすすめる時、複数の担任・担当で指導に当たるので、自分の思いや考えと違う場面に遭遇します。そこに悩みを抱えているんですね。でも、子どもたちに個性があるように教員にも一人ひとり個性があり、培ってきた文化や考え方、教育観や発達観も違い、子どもへのアプローチの仕方も違います。また、それぞれ得意なことや苦手なことがあり、いい面や得意な面を活かし、不得意な面を補い合いあって、全体としてまとまりのある教育実践がすすめられると思います。

とはいえ、その「まとまり」をつくるのはとても難しいですよね。そのためにはやはり、話し合いが大切になると思います。教員によって教育観や発達観の違いはあるかもしれませんが、「子どもの見方・とらえ方」はできるだけ共有するように心がけています。日々の実践を通して子どもの変化で気づいたことやわからないことなどを、率直に出し合い、話し合うことで、子どもたちの見方・とらえ方で共通の認識を得られると思います。

そんな話し合いの過程で指導の在り方など、みんなで確認したことをみんなで実践する。その実践を通して授業や生徒指導はどうだったかを話し合う中で、次の課題や指導方針が見えてくると思います。多忙化がすすみ、話し合う時間を確保する困難さは確かにあります。しかし、話し合いの中で確認したことでもいい実践ができればみんなの喜びになり、新たな実践につながると思います。そんな、地道にコツコツとチームでとりくむ実践が「障害児教育の魅力」だと思っています。

(山内富士生 東大阪支援学校分会 27年目)



府障教ホームページアドレス <http://www.1a.biglobe.ne.jp/fushou/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



大阪市内で複数の保育園を運営するある社会福祉法人が、2016年8月に中央区内に新園を開設しました。同法人は、新園建設のため2015年8月に、約700㎡の国有地を2億4500万円で購入しました。敷地内に建っていた公務員宿舎の解体のための費用1600万円と、がれき処分費用70万円も買主である同法人の負担です。

新園の建設が始まると、今度は新たに大量のがれきが出てきたため、その処理費用約300万円も支払わなければならなくなりました。同法人にとっては想定外のがれきだったため、近畿財務局に急遽賠償請求しましたが、購入以前の埋蔵物だったことが証明できなければ買主が自己負担すべきだと、未だに問題は解決していません。

連日マスコミを賑わせている、森友学園が入手した国有地は、もともと国が1億円余りの埋蔵物撤去費用を払った上で貸し出されることになっていました。それを、森友学園が改めて払い下げを希望したため、国が評価した10億円近い土地代から、新たに見つかった廃棄物の処理費用8億円を差し引き、わずか1億3400万円、10年間分割払いという破格の条件で払い下げられたのです。

「近畿財務局の担当者からは、国有地は国民の財産なので、保育用地だからと言って安く売却することはできないと言われ、がれき処分費用についても厳しいハードルがあり、簡単に払ってもらえない」学園にあんなに安く土地を売るなんて、担当者の判断だけではありません。新たな保育園を開設した、先の法人理事長の怒りの証言は、非常に説得力があります。